

『見附駅周辺整備基本計画書』（H30.9月策定）の概要

1. まちづくりにおける駅周辺整備地区の位置づけ（まちづくりの方針）

- ・交通結節点としての機能強化
- ・交流空間・市の玄関口といったシンボル空間としての魅力向上

2. 役割達成に向けた課題

① 交通の課題	② まちづくりの課題
・東口は朝夕の通勤ラッシュ時に送迎車両の渋滞が発生 ・東口は一般車両とバス等が混在し、バス等を便利に利用できる環境になっていない ・西口から直接改札口に行けない	・駅周辺は集客施設がほとんどなく、ラッシュ時以外は閑散とした状態 ・緑が少なく良好な景観となっていない ・駅西口は発展する西側地区の玄関口として相応しい空間となっていない ・駅周辺は冠水が発生しやすい

3. 見附駅周辺整備の基本的な考え方と基本方針

① 基本的な考え方

地方都市駅周辺空間のモデルとなる、「人と交通の結節点 スマートウェルネスみつけ駅」

② 基本方針・対応事業（具体的な計画イメージ図は別紙2参照）

基本方針	対応事業（※）
方針1：見附駅東口・西口駅前空間の安全性及び利便性の向上	東口駅前広場の再整備（交通導線の整理） 西口駅前広場の再整備（〃） 駅利用者の送迎用駐車場・連絡通路の整備 雨水貯留槽の整備
方針2：西口地区から駅へのアクセス性向上	東西自由通路・新駅舎の整備
方針3：マイカーから徒歩・自転車・公共交通への転換の促進	東口駅前広場の再整備（公共交通の利便性・快適性向上、歩行空間の充実） 西口駅前広場の再整備（〃）
方針4：見附市の玄関口に相応しいシンボル空間としての顔づくり	東口駅前広場、西口駅前広場、東西自由通路、新駅舎等の整備（駅周辺の景観整備） 交流広場などの緑化推進
方針5：見附駅周辺に人が集い交流する賑わいの創出	交流施設の整備、交流広場の整備 公民連携による交流施設・広場の利活用

（※）赤字：整備済、青字：未着手、緑字：一部着手